

『タマネギの冬季管理』

タマネギの収量向上には、冬の間の栽培管理が重要になります。

以下に作業内容を掲載します。

追肥

基本的に3回施用します。冬の間肥切れすると花芽分化しやすくなり、トウ立ちの原因となります。また最後の追肥では、3月中旬以降の施用をすると球の腐敗に繋がるので遅れないように注意しましょう。肥料はヨーロッパ化成S604、NN604など速効性の化成肥料が適しています。1回あたり300~400g/10㎡施用します。施用量が多いと、乾腐病や軟腐病が発生しやすくなるので気を付けましょう。

なお、基肥にタマネギ一発肥料など長期間肥効が持続する肥料を施用している場合は、追肥の必要はありません。

追肥時期目安

- ・1回目 12月下旬~1月上旬
- ・2回目 1月下旬~2月上旬
- ・3回目 2月下旬~3月上旬

灌水

土壌が乾燥する場合、適宜灌水をして根の伸長を促します。1~2月の過乾燥は花芽分化を誘引し、トウ立ちの原因になります。

病虫害防除

12月にべと病の防除ができていない場合は、病徴がなくても1月上中旬に1回は予防をしてください。

また、暖冬の場合1月下旬頃から、越冬罹病株が発生する場合があります。

越冬罹病株は放置しておくとし、2次感染を繰り返す、圃場にべと病が蔓延する原因になるので、見つけ次第抜き取り、圃場外で処分してください。抜き取り後は薬剤散布をして2次感染を防ぎます。

《越冬罹病株の特徴》

葉身が湾曲し、葉に光沢が無くなり全体的に黄化して灰色の胞子を生じます。



写真 越冬罹病株

表 タマネギべと病登録農薬の一例

薬剤名	希釈倍率	有効成分	FRAC	総使用回数
リドミルゴールドMZ	1000	マンゼブ	M3	5
		メタラキシルM	4	3
メジャーフロアブル	2000	ピコキシストロビン	11	3
ベトファイター顆粒水和剤	2000	シモキサニル	27	3
		ベンチアバカルブイソプロピル※1	40	3
レーバスフロアブル	2000	マンジプロマミド	40	2



※1 ベトファイター顆粒水和剤とプロポーズ顆粒水和剤は同じ有効成分が含まれているため、合わせて3回までしか使えないので要注意です。